令和３年度学校関係者評価委員会　議事録

【日　時】令和３年７月１１日（日）１５：４０～１６：１０
【会　場】こころ医療福祉専門学校　３階　講堂
【委　員】出席：大木田治夫，志岐浩二，石原義大，諸岡辰巳，川﨑和幸，谷川幸太
【事務局】出席：藤原善行，小野格，高田一樹，松下周平，濱村菜採
　　出席：新谷大輔，谷口幸太郎，中野仁，永田俊晴，高橋美如
【委　員】欠席：髙比良宏輔，有村俊男，松本修，清川慎介

（敬称略）

【議事録】

【総　評】大きな問題なし。

１　学校自己評価の説明（司会　副校長　小野　格）
＜会議の趣旨＞
　学校関係者評価委員会は，これも職業実践専門課程に規定されているもので，こころ医療福祉専門学校が作成した，前年度の実績についての「学校自己評価報告書」に対して，外部の学校関係者の委員の方々に審議・ご意見をいただき，今後の学校の教育や運営の改善に役立てるものになります。令和２年度の学校自己評価報告書とそれに対する委員の方々の評価表の用紙は，委員の方々には事前にお配りしております。既に評価表に記入をいただいている方もいらっしゃると思いますが，会議の後にお預かりさせていただきますので，そこに寄せ頂いているご意見等も併せて会議の中で御発言いただければ幸いです。
　最初に本校の方針についてご説明させていただきます。本校の学校自己評価は，文部科学省が発表した専修学校の学校評価ガイドラインに沿って，学生及び教職員アンケートを実施し，それぞれの学科，部局で中間評価を進めております。その後，本年３月に最終評価をまとめ，４ 月に県学事振興課に提出したものになります。ガイドラインに示された書式に加え，本校では独自に各小項目の評価根拠を意識するために，その根拠あるいは背景についても記載するようにしております。また，学生及び教職員アンケートを評価基準を加えることで，従来の主観的な基準に留まらず，客観性の担保ができるようなっております。
　「学校自己評価報告書」については資料が多く，ひとつひとつ吟味すると時間を要しますので，別添として資料を準備させていただきました。私より別添資料にそってご説明させていただき，その後，各委員の先生方より気になる点について御発言いただきたいと思います。

以下，学校自己評価報告書，学校自己評価結果に係る評価書の説明を行う。

２　令和２度度　学校自己評価結果に係る委員の評価書

特に問題なし・・・○

附帯意見あり・・・△

	点検項目	学校関係者評価
１	学校の目標・計画	○
２	教育理念・目標	○
３	学校運営	○
４	教育活動	○
５	学修成果	○
６	学生支援	○
７	教育環境	○
８	学生の受入れ募集	○
９	財務	○
１０	法令等の遵守	○
１１	社会貢献	○
１２	国際交流	○
１３	学校評価の総合的結果	○

３　令和元年度学校経営総括（副校長　小野格）

（１）　教員が熱意を持って授業に取り組んでいる項目が高い評価を得ており，学生にも，その姿勢が伝わっていることは評価できる。

（２）国家試験に向けた指導も，年間計画に基づいて計画的・継続的な指導が成果に繋がっている。全学科が，昨年度を上回る結果であった。

（３）今年度は，退学者数が１３名であり，昨年度比３０名と大幅に減少したことは評価できる。しかし，うち１年生が６７％と課題が残った。

（４）前期後期共に卒業生や在校生の社会的な活躍及び評価については低く，卒後教育や卒業生をどう在校生に繋いで行くか等についても工夫を要する。

（５）終息が予想できないコロナ禍の中で，加速するオンライン化への対応，学生の自学自習姿勢の確立等，新しい対応課題への取り組みが必要である。

４　委員意見

（１）　学生支援について

○病院でも毎年精神的に疾患を抱え退職される職員が出てきている。学校でそのよう

な学生はいないのか,また,いた場合に学校としてどのような対応をしているのか。

（大木田委員）

〇学生の中で学業が上手くゆかず挫折して，その後鬱症状を来す学生もいる。引き金は学習習慣がないことが多い。また，臨床実習にてコミュニケーションが取れずに同様に問題を抱える学生がいる。このような学生の中には，そもそも理学療法士を目指したことについて悩む学生もいる。この点については，しっかりとして目標設定や日々の指導等で防げる部分もあるが，難しいことが多い。（新谷）

〇学校としては，常勤ではないが，臨床心理士の資格を持つスクールカウンセラーとの面談をさせることができる。グループ内の「こころ未来高校」があり，同様にこころに不安をを抱えてる学生への対応については長けている部分もあるが，やはりそのような学生についての対応にはパワーが求められる傾向が強くなっている。ある県立高校の校長先生との話では，高校現場でも何らかの障害を抱えた学生の割合は２割に近づいていると聞いている。多様性の社会において，このような障害等を抱えた学生への対応をしっかりすることで学校の特色にも繋がると思っている。

（小野）

〇真面目な人がなり易い。病院でも復帰に向けて時間と労力を要する点は共通している。より多くの学生がいる学校としての対応は厳しいものがあると思う。

（大木田委員）

（２）就職・離職等について

〇整骨院では,開業したいという学生が減少している中で,指導にも気を付けている。開業を目的としている学生は意識が高く多少強い指導でも受け止められるが，そうでない方についてはハラスメント等の問題も出てくる。就職先を失敗しないためにも，学生が何を求めているのか明確にできないか。履歴書だけでは難しい部分がある。（石原委員）

〇個人面談を実施しニーズの把握はするようにしている。しかし，開業というイメージを持っている学生は減っており安定を求める傾向は強い。いただいたご指摘について改善できるように，見学等を継続していきたい。（永田）

〇対面での就職説明会が実施できていないことも多い。機会を作ることについては注力しており,可能であれば２年生の時点で就職先の見学等をするようにさせていく。

（中野）